

編集 後記

ようやく暖かくというか急に暑くなりました。このところ季節の変わり目が突然やってくるような気がしております。私、この1月に副編集委員長を拝命いたしました。一所懸命に頑張りますのでよろしくごお願い申し上げます。

まだ雑誌編集に携わって3か月ではありますが、いわゆる「質的研究」に出会うことが多く、その中で特に気になることがありますので、この場をお借りして私見としてコメントさせていただければ幸いです。それは「質的研究を専門としない研究者・実務者にも理解できるような方法や解釈などの丁寧な記述に心がけるようにしてほしい」ということです。ある分野では常識的な研究方法であっても、公衆衛生学領域では公衆衛生学研究としての目で、その研究は評価されることとなります。従って原著論文であれば、たとえば背景（そのトピックの紹介、他の研究者の動向、研究の必然性）、方法（対象の選定、データの収集法、評価項目の妥当性、解析方法）、結果の表示、考察（研究のオリジナリティ、その研究の限界、公衆衛生的メッセージ、等について）の妥当性などの観点から査読されることとなります。しかしながら質的研究として投稿される論文の中に、研究論文として上記の要素を満たしていないものが見受けられます。質的研究のエビデンスについて掲載された成書、例えば Straus ら。Evidence-Based Medicine 4th, Churchill Livingstone (2011) P68, 110-113を参考に、「研究の科学性」（対象者の選択、データ収集の方法、解析法、結果の表示、研究結果の一般化可能性等の適切性）にご

次号予告（第59巻・第4号）

原著

地域高齢者の睡眠と抑うつとの関連における性差
.....田中美加, 他

研究ノート

自覚症状のある肺結核患者の受診の遅れとその特徴
.....加藤由希子, 他
統合失調症の本人を治療につなげる際の行政専門職による家族支援
.....蔭山正子, 他
病原体サーベイランスから見た便検体からのポリオウイルスの検出状況
.....曾我洋二, 他

資料

母親の食生活に対する行動変容の準備性と児童の朝食摂取および家族の健康関連行動との関係
.....今村佳代子, 他

連載

ヘルスサービスリサーチ②.....東 尚弘

留意いただければ幸いです。

私は、日本の公衆衛生のさらなる発展には、現場の現状紹介や、現場への還元を意識した研究が不可欠であり、さらに今までデータにならず見過ごされてきた多くの「何か」が必要な気がしております。質的研究はそれらに光を当てる可能性があると思います。どうぞ公衆衛生学領域の読者をうならせるような研究の投稿を期待しております。
(高橋秀人)

編集委員・査読委員（五十音順）

委員長

田宮 菜奈子 (筑波大学大学院)

編集担当理事

小林 廉毅 (東京大学大学院)

安村 誠司 (福島県立医科大学)

山縣 然太郎 (山梨大学大学院)

副委員長

石崎 達郎 (東京都健康長寿医療センター研究所)

高橋 秀人 (筑波大学大学院)

編集委員

池田 俊也 (国際医療福祉大学大学院)

長田 久雄 (桜美林大学大学院)

郡山 千早 (鹿児島大学大学院)

西 條 泰 明 (旭 川 医 科 大 学)

斉 藤 恵 美 子 (首 都 大 学 東 京 大 学 院)

佐 伯 和 子 (北 海 道 大 学 大 学 院)

谷 原 真 一 (福 岡 大 学)

中 尾 睦 宏 (帝 京 大 学)

中 澤 港 (神 戸 大 学 大 学 院)

中 瀬 克 己 (岡 山 市 保 健 所)

中 村 好 一 (自 治 医 科 大 学)

那 須 郁 夫 (日 本 大 学)

西 信 雄 (国 立 健 康 ・ 栄 養 研 究 所)

安 田 誠 史 (高 知 大 学)

山 本 秀 樹 (帝 京 大 学)

岡 田 就 将 (厚 生 労 働 省)